室小だより

茅ヶ崎市立室田小学校
令和４年　１月号
校 長　　下 反 達 二

学校教育目標「豊かな心を持ち、主体的･創造的に行動する子の育成」

「日日是好日（にちにちこれこうじつ)」

元日の朝は、空は真っ青、風もなく、ほんとうに穏やかで、しかし、凛とした空気に、身の引き締まる思いの朝でした。このように、元日の朝をふかぶかと味わいながら、今年の１年間に思いをめぐらせたのは久しぶりのような気がします。

お正月を迎えることを、「年越し」古くは「年取り」と言っていたそうです。日本では、昭和の初め頃は、一般的には、数え年で年齢を数えていました。「数え年」というのは、生まれるとまず１歳と数え、生まれて最初に正月を迎えると２歳となり、その後、正月を迎える度に１歳ずつ歳をとるように数える年齢の数え方です。ですから、昔は、正月に皆がそろって歳をとる感じだったのですね。昭和初期に書かれた本などを見ると「正月は、誰にも齢を一つずつ持ってきてくれたのであるが、子どもら程、それを喜び受けたものはあるまい・・・・」（倉持惣三著　育ての心）といった文章を見つけることができます。正月を「年取り」と言っていたのにも合点がいきます。

さて、表題の「日日是好日」は、森下典子さんのエッセイ「日日是好日～お茶が教えてくれた１５のしあわせ～」の中にたびたび出てくる言葉です。同名のタイトルで映画にもなりました。「日日是好日（にちにちこれこうじつ)」という言葉は、もとは、中国唐の時代の雲門文偃（うんもんぶんえん）という禅師の言葉だそうです。文字どおりに読み取れば「毎日が良い日だ」という意味になりましょうか。いろいろ調べてみると、もう少し深い意味があるようです。毎日の生活を送っていると、楽しいことも、嬉しいこともたくさんありますが、悲しいことやつらいこともたくさんあります。でも、これらの毎日は必ず自分の人生にとって意味あるものなのだと思います。今この一瞬は自分にとって二度と繰り返すことのない人生の一部分なのです。だから、曇りの日であっても雨の日であっても積極的にその状況の中で精一杯生きることが大事なのです。そう考えて毎日を味わうことができれば、どんな毎日も必ずかけがえのない日だと思えるようになるはずです。この言葉にはそんな意味があるようです。

エッセイの中にこんな言葉がありました。「過去や未来を思う限り、安心して生きることはできない。道は一つしかない。今を味わうことだ。過去も未来もなく、ただこの一瞬に没頭できた時、人間は自分がさえぎるもののない自由の中で生きていることに気づくのだ……。」

今後コロナ禍がどうなるか、分かりませんが、今日の一日は、二度と取り戻すことのできない、かけがえのない時です。心を込めて好日を見いだせるよう、この時を大切に、精いっぱい生きて、年を重ねていくしかないと思っております。

今年度も残すことろ３か月、「一月往ぬる二月逃げる三月去る（いちげついぬるにげつにげるさんげつさる)」とも言います。忙しい中にもゆとりをもちつつ、子どもたちの笑顔があふれ、生き生きと学習に取り組み、充実した学校生活が送れるよう、全職員で知恵を絞りながら教育活動を紡ぎ続けていきます。本年も変わらず、よろしくお願いいたします。